

「新たにスタート」

～神は新しいことをする！！あなたはどうする？～

創世記 13:5～18

■ 征貽

「征」という字は私たちがその場所に出向いて行ってその人が正しく行うこと、そして正しいものが残るという意味で、「貽」という字は代々良いものを継承するという意味があります。私たちが行って実を結び、その実が残るという今年のテーマのヨハネ 15 章の御言葉でもあります。私たちがよい地になること、そして行って正しい種を蒔くこと、これがとても大切です。

■ アブラハムとロト

アブラハムとロトはとても仲のいい家族でしたが豊かになるというのは怖いことです。アブラハムは家族で争わないですむように何度も提案しましたが、回復はありませんでした。アブラハムはそれぞれ分かれて生きようとロトに選ばせました。ロトの家族が選んだのは水が集まる豊かな森のような場所（ソドムとゴモラの町）でした。ロトは尊敬し信頼するアブラハムから争いの故に別れていく道を選び、且つ目の前の安堵を選んだのです。私たちは安堵、平々凡々を選んだ時から失っていく人生が始まっていくのです。何故かという、チャレンジの起こらない平凡な暮らしの中で入ってくるのは不足という荒廃です。アブラハムは絶えず礼拝をしています、ロトが礼拝をしている姿は全くありません。ロトは甥で、次の世代です。最初の思いを知らないで継承するのは非常に難しいのです。私たちクリスチャンは、神様が良くしてくださった過去と、その土台の上に神様が新しいことをされようとしているのだと理解していることが大切です。そして、今まで多くの人が培ってきた継承されたものと、今から始まる神様の新しい計画を素直に受け取れるかが大切なのです。アブラハムは今まで培ってきたものが壊れた時、何とか得ようとはしませんでした。彼は豊かに富んでいましたが、ロトに譲ってそれを捨てることを覚悟しました。そして、もう一度祭壇を築いて荒地（カナン）を選びました。私たちがアブラハムの目線に立って生きるのか、それとも今持てるものを何とか守る為に相手を排除するのか。私たちは持つと、自らのものを脅かすものを排除するようになるのです。これが罪です。今年一年間、沢山の何故ということが起きるでしょう。その時にアブラハムの目線がなければ、神様が用意しているその後の祝福を失ってしまうことになります。失って欲しくない（ソドムとゴモラに行きたくないので、神様は伝えています。自らのことをもう一度襟を正して受け取りましょう。

■ 何故ということが起こった時

正しいことを言われてもあなたの価値観はそれを否定します。安心がいいからです。でも神様は安心を残すとは言われていません。平安を残すと言われたのです。アブラハムは自分が行くところ何処でも神がいると信じました。ですから彼は何処へ行っても祝福されると信じていたのです。だから荒地だって大丈夫だったのです。神様が行けと言われてるところに行くのだからどんな所でも栄えると信じ、そんなアブラハムに神様は「あなたの足で地を歩きまわれ」と約束を思い起こさせました。あなたの足も何処を歩くかが大事なのです。神様はあなたの領土を広げろという意味で新しいスタートをしなさいと言っているのです。アブラハムは沢山のものを得ましたが、物質による安心を求めず神様の平安の中で新しいことを選びました。そこが約束の地になったのです。

■ 神様は新しいことをする

ロトになるかアブラハムになるか、あなたが決めることです。ソドムとゴモラが減びる時、神様は天使を遣わし、ロトの家族だけ助けようと言います。ロトの妻は絶対に後ろを振り向いてはならないと言われますが、後ろを振り返り塩の柱になってしまいます。（ルカ 17:32～3）私たちもすぐに過去を振り向いてしまいます。しかし、神様の前で思い起こしてください。神様がどれだけ愛し、良くしてくださったかを。私たちもロトのように振り返る人生をやめなければなりません。アブラハムは決断しました。全てを

失っても、神様がいれば平安であると。私たちにその覚悟があれば失うことはありません。それを得ようと失ったらどうしようと恐れる人生ではなく、今年あなたの目的に向かって進むのです。主がいれば何でも出来ます。（エレミヤ 32 章）もしあなたが安堵を求めることをせず新しいスタートをすれば神様は必ずあなたを祝福します。持たない者は持っているものまで取り上げられるのです。持たないものは神の目的です。神様があなたに与えた計画を忘れ、今あるものを何とか守ろうとして生きたら失うのです。

■ ①生き方を残す

クリスチャンは生き方でしか神の栄光を表せません。絶えずスタート（光）が起こされなければいけません。過去がどうあっても、神様が働かれれば全てが栄光に変えられます。過去のマイナスもプラスになるのです。ですから、捨てるという決断が必要です。私たちがいつも覚えていなければならぬことです。

■ ②新たにチャレンジ

今年、去年と同じように生きないでください。神様は新しくスタートする時に、あなたの過去の全ての経験と作り上げてきた自負を壊します。だから何故が起こります。耐えられない何故や屈辱も起こります。その時に出来上がった偽りの自分が壊れていくのです。ずっと自分に鎧を着せてきたのです。自分を守るための武器だったのです。だけどそれを壊さないと本当のあなたが出てきません。ですから何故という出来事が今年起きるとき、信仰に立って平安を得てください。アブラハムも何故という出来事が起きました。しかしイサクを捧げるように言われた時、平安であったのです。「私と息子はここに帰ってくる」と、神様が何とかすると信じていたのです。彼はいつも祭壇を築いて礼拝をしていたのです。今年一年間、新しいことをする前にやらなければならないことがあります。それはアブラハムのように必ず祈って礼拝をすることです。それがなければ新しいことは出来ません。神様は豊かなところに奇跡を起こすとは書いていません。荒野に道と書いてあるのです。そして獣ですら神を崇めると言っているのです（イザヤ 43:18-20）私たちは、自分の手柄になってしまわないよう、神さまが荒地に川を流すところを見なければいけません。よい時も神様は働かれますが、私たちが道を外して行ったとき何故が起こります。その時に神様を見つけてください。すると新しいことが起こるのです。新しいことを起こす為に、先のことどもを思い出すなど書かれているのです。これは過去のことを言っているのです。ですから以前あったことを見てはいけません。過去を忘れるのではなく捨てるのです。神が良くしてくださった過去に変えるのです。神様は生きて働かれた、今度は何をしようかという信仰の姿勢が大切です。私たちが神様の前にそれができる時に神様が奇跡を行います。

■ 安堵は危険！！平和を願え

安心を願わないでください。備えは大切ですが、備えることと不安は別です。こうなったらどうしようという不安は、そうなるってしまいます。願ったとおりになることと聖書に書いてあるからです。信仰によって神様は平安を与えてくれるから私は大丈夫！という信仰が大切です。そして神様の前に願うのです。「どんな所に行っても神様は私を平安に守られる」と神様に平安を求めて願いましょう。

最後に

アブラハムはいつも祭壇を整え、神様の前に進み出しました。私たちは怒り、比較、不安、恐れ、自己中心、そして内側にある自らを得ようとする心を捨て去り、新しいことにチャレンジします。行って実を残しその実を次に繋げます。アブラハムのように、行ったことがない場所でも、神様が共にいるならその地は与えられる、うまくいくと信じることが出来るよう、いつも神様に祈り礼拝を捧げていきましょう。他者を排除する価値観を捨て去り、神を愛し隣人を愛し続ける一年間となりますように。

（要約者：西崎 芳栄）

（1月8日）